

子どもの心の健康づくり対策に関する研修の実施について  
浦園その子（全国保健センター連合会） 長坂典子（総合母子保健センター）

子どもの心の健康づくり対策に関連する研修の事例を示すことにする。ここでは、全国保健センター連合会及び総合母子保健センターで実施しているものを示す。

(1) 全国保健センター連合会主催の研修

「こころの健康づくり」の研修会について

「母と子のこころの健康づくり中央研修会」は、社会法人母子健康センター連合会（現 社団法人全国保健センター連合会 平成 8 年改組 以下全母連）の主催により昭和 59 年 2 月にスタートし、次年度の昭和 59 年から厚生省後援で開催されている。また、昭和 59 年度 から平成 5 年度までは恩賜財団母子愛育会の共催、平成 5 年度からは社会福祉法人日本保育協会が共催となり、受講対象者として保母にも参加を呼びかけている。

全母連では、昭和 54 年 3 月に小児保健や児童臨床心理の専門家と現場の保健婦による「幼児こころの健康づくり研究会」を設け、今後の母子保健の中で子どものこころの成長発達を支援するための活動を検討開始した。この背景には、1 歳 6 ヶ月健康診査が始まり、この健診で、育児不安や苦手意識、子ども嫌いと言った母親の訴えが表面化して、保健婦らに問題意識が広がったことがある。

この研究会における検討結果を元に、平成 55 年度より県別「幼児健康教室のための指導者研修会」を全母連と各県母子健康センター連絡協議会との共催で実施され、初年度は 4 県、昭和 63 年度までに延 43 回開催されている。平均受講者数は約 100 名。この「幼児健康教室」は現在各地域で実施されている「遊びの教室」の原型で、県別研修会のプログラムは、①幼児期の精神発達と問題行動の予防と早期発見、②保健婦等による母親の指導法、③幼児こころの健康教室モデルプランとなっている。昭和 58 年 4 月に、この研修会テキストとして「幼児期こころの健康づくり」が制作されている。

昭和 60 年 12 月には、社団法人全国児童館連合会と合同で、当時の厚生省母子衛生課長、育成課長の参加も得て児童健全育成懇談会が設けられ、東京都墨田区の向島保健所・中川児童館、宮城県多賀城市の母子健康センター・鶴ヶ谷児童館でプロジェクトチームを作り、保健福祉分野が連帯して「幼児健康教室」をモデル的に実施している。

さらに、平成元年～三年度の厚生省心身障害研究「地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究（主任研究者 高野陽 国立公衆衛生院母子保健学部長）の中で「1 歳代幼児を対象とした『母と子の遊び教室』の開発に関する研究」が行なわれ、この研究において「遊びの教室」に名称を使用した。宮城県・石川県・兵庫県の 3 県で保健所・市町村の協力による実験的教室を開催、「遊びの教室」について対象者や目的等により、①療育型、②保健指導型、③健全育成型と 3 分類して、保健分野が取り組むべき事業についてや教室開催後の自主グループへの発展等、地域の子育て支援のあり方について検討を行なっている。

第1回研修会（昭和58度）

第15回研修会（平成9年度）

第1日目

第1日目

13:00	幼児期の心の発達と母親の指導 (児童心理)
15:30	幼児の健康づくりと育児相談 (小児科医)
17:00	研 究 集 会
19:30	

9:30	育児支援のための母子保健事業 (厚生省)
10:30	現代の子育てを考える (小児科医)
12:00	
13:00	

第2日目

第2日目

9:00	幼児の遊びと遊ばせ方 (保母)
10:30	パネル討議 市の早期療育相談「遊戯教室」 保健所の健診と継続指導
12:30	
13:30	パネル討議 保健所の心理相談・経過観察
15:50	全体討議 座長(児童心理)

13:00	グループ討議(1) 自己紹介・参加動機
13:40	乳幼児の遊びと援助の仕方 (児童心理)
15:10	おもちゃと子育て支援 (おもちゃコンサルタント)
16:50	

9:00	事例発表(3市町村) 「遊びの教室」の現状	座長・助言者 (小児科医)
10:00	グループ討議(2) 今後の遊びの教室を考える	
12:00		
13:00	グループ討議(3) グループ発表	
14:00	グループ討議(3) 総論	
14:40	乳幼児の遊びと実践 (プレイデザイナー)	
16:10		

この研究成果をもとに、平成5年3月には全母連から「母と子の遊びの教室開催マニュアル」が発行され、「母と子のこころの健康づくり中央研修会」のテキストとして使用されている。

この間、国においても報告書や新規事業に「こころの健康づくり」「遊びの教室」の表記が見られるようになり、登校拒否児の増加、いじめや児童虐待等の社会問題化等により子どものこころの健康づくりがクローズアップされ、国の事業として「こころの健康づくり事業」が推進されることとなった。

現在、社会法人全国保健センター連合会（前全母連）が開催している「母と子のこころの健康づくり中央研修会」は、「遊びの教室」開催のための研修としてプログラミングされている。毎年1回2日間の研修で、約100名が参加する。定員に達し次第締め切っているが、希望者の増加の一途であり、開催回数の増加が必要となっている。さらに、東西ブロックで各1回開催されている「母子保健体操普及指導講習会」においても、「遊びの教室」のための講義・実習を取り組んでいる。

第1回「母と子のこころの健康づくり中央研修会」と現在（平成9年度）のプログラム（昭和58年度）は、次のとおりである。第1回の講演やパネル討議、第2回での母と子のきずなの形成や乳幼児期の遊びの意義等の講義や厚生省母子衛生課長の司会によるフォーラム等、初期の研修会では、乳幼児期のこころの問題への取り組みの必要性の啓蒙に力点が置かれ、現在は実施している「遊びの教室」の開催方法・指導法の課題がプログラミングされている。各地の取り組みについての事例報告と問題提起、それに続くグループ討議により、現場の保健婦等がより適切な育児支援のあり方を見いだすことを研修テーマとしている。この場合、参加者は主として市町村保健婦で、保育者が2～5名程度参加している。

## （2） 総合母子保健センター主催の研修

総合母子保健センターでは、厚生省の補助事業として母子保健領域の研修を、母子保健及び児童福祉分野の従事者を対象として実施している。

1997年度の育児不安対策、虐待対策関係の研修としては、1「育児不安と子育て支援を主題とするもの、が実施された。それぞれのプログラムは別に示す。両方の研修とも100名以上の参加が見られた。参加者の内訳は1. 育児不安対策では、保健婦78名・保育者26名・福祉司等4名であり、2. 虐待対策では保健婦などの看護職65名・保育者21名・ケースワーカー等14名・心理関係等6名・行政事務職2名である。

その他の育児不安解消に関連する研修として、相談の基本となるその実技を身につけるための研修も実施されており、有効な研究として評価されている。

## （3） まとめ

それぞれの研修は、3日の日程で行われ、短期間の開催で、保健婦などの配属が少ない市町村でも、派遣することができると思われ、また、今日の母子保健・児童福祉上の重要な課題となっている問題であり、関心が深いテーマであるため、多数の参加が認められた。

特に、全国保健センター連合会主催の研究では、保健セナーで実施されている具体的な事業に即したテーマを取り上げているため、規模の小さい市町村でも参加の希望が多い。

規模の小さい地域に配属されている保健婦は、自分の実践していることに不安を感じており、その不安の解消を図り、さらにより良い実務的な内容を取り入れることにとって、その実践に即効的な研究となると評価している。

主題：育児不安と子育て支援

	午 前	午 後
2 月 24 日 (火)	9:30 } 受付 10:00 } 開講・オリエンテーション 10:30 「子どもの心の健康づくり対策」 } 日本子ども家庭総合研究所長 平山 宗 宏 12:00	1:00 } 情報交換 2:00 2:10 「育児不安とは」 } 日本子ども家庭総合研究所 愛育相談所所長 川井 尚 4:10
2 月 25 日 (水)	9:00 } 「育児相談の受け方 面接相談」 実技（ロールプレイング） } 心身障害児総合医療療育センター 通園係長 三浦 幸子 } 12:00	1:00 } 「子どもの心の発達」 日本子ども家庭総合研究所 研究企画・情報部長 庄 司 順 一 2:30 2:45 「遊びの指導」 } 聖徳大学短期大学部講師 鈴木 みゆき 4:45
2 月 26 日 (木)	9:00 「育児相談の受け方 電話相談」 } 相談員 守田 英子 10:30 10:40 「在日外国人の育児相談から」 } 東府中病院 看護婦 アン・サリバン・田中 12:00	1:00 実践報告 「育児不安を解消するためのサポート」 } ①多胎児グループ 東京都狛江調布保健所 保健婦 町田 博子 ②文庫活動 おひさま文庫 本多 とも子 ③保育園 } 大田区東蒲田保育園 保母 渡辺 暢子 司会・助言 日本子ども家庭総合研究所 情報担当部長 中村 敬 4:30 4:40 閉講

主題：乳幼児虐待予防と育児支援

	午 前	午 後
3 月 10 日 (火)	9:30 } 受付 10:00 } 開講・オリエンテーション 10:30 「虐待とは」 } 日本子ども家庭総合研究所 子ども家庭福祉研究部長 高橋重宏 12:30	1:30 情報交換 } 2:30 2:45 「親と子の相談」 } 日本子ども家庭総合研究所 愛育相談所長 川井尚 4:15
3 月 11 日 (水)	9:30 「心のトリートメント」 } 日本社会事業大学 社会福祉学部助教授 西沢哲 11:30	1:00 「虐待－外国では」 日本子ども家庭総合研究所 研究企画・情報部長 庄司順一 2:30 2:45 「虐待・ネグレクト その社会的対応①」 } 齊藤・小笠原法律事務所 弁護士 小笠原彩子 4:15
3 月 12 日 (木)	9:00 「虐待・ネグレクト その社会的対応②」 厚生省児童家庭局企画課 児童福祉専門官 才村純 10:30 10:40 「虐待・ネグレクト その社会的対応③」 } 東京都児童相談所 児童福祉司 田中島晃子 12:00	1:00 実践報告 「虐待防止の地域ネットワーク づくり」 ①栃木県における小児虐待防止 ネットワークづくり 栃木県身体障害医療福祉センター 医務科長 下泉秀夫 ②施設から地域へ 東京都立母子保健院 ケースワーカー 鈴木朝子 司会 庄司順一 3:30 3:40 閉講

#### IV結論

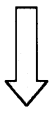
子どもの心の健康づくり対策事業の実施計画の推進において、その実施上の必要性和問題点の究明、その問題の一つであり、事業の内容としてあげられている担当者の資質の向上に関連して、研修のあり方について検討した。

担当者の確保がもっとも大きな問題の一つであるが、研修によって、人材の確保の推進が可能となることもある。特に、潜在（在宅）の人材を発掘して活用することも可能となり、人材の少ない人口規模の小さい地域においては重要な解決方法といえる。

その研修においては、ここでは、①虐待対策、②出産母子支援対策、③育児不安解消対策、に関して検討した。その基本的な方向性としては、今日の育児実態の認識が

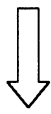
不可欠であり、それに伴って育児不安、虐待等の問題が発生していることを理解することができるようにする。さらに、その認識のもとに多くの分野・領域の人材や職種の連携によって、多くの問題が解決され、子どもの状態の改善や再発防止、予防対策が確立できることを理解できるようにすることが、研修の基本的方針であるといえる。

具体的な研修内容や方法については、できるだけ実習や事例検討を導入することによって、より実際的な活動に向けての対応方法が把握できるように配慮する。さらに、地域特性、地域における活動状況に見合う内容を組み込んだ研修の確立が必要である。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 結論

子どもの心の健康づくり対策事業の実施計画の推進において、その実施上の必要性と問題点の究明、その問題の一つであり、事業の内容としてあげられている担当者の資質の向上に関連して、研修のあり方について検討した。

担当者の確保がもっとも大きな問題の一つであるが、研修によって、人材の確保の推進が可能となることもある。特に、潜在(在宅)の人材を発掘して活用することも可能となり、人材の少ない人口規模の小さい地域においては重要な解決方法といえる。

その研修においては、ここでは、虐待対策、出産母子支援対策、育児不安解消対策、に関して検討した。その基本的な方向性としては、今日の育児実態の認識が不可欠であり、それに伴って育児不安、虐待等の問題が発生していることを理解することができるようにする。さらに、その認識のもとに多くの分野・領域の人材や職種の連携によって、多くの問題が解決され、子どもの状態の改善や再発防止、予防対策が確立できることを理解できるようにすることが、研修の基本的方針であるといえる。

具体的な研修内容や方法については、できるだけ実習や事例検討を導入することによって、より実際的な活動に向けての対応方法が把握できるように配慮する。さらに、地域特性、地域における活動状況に見合う内容を組み込んだ研修の確立が必要である。